

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たいむクラブ小倉南 単位1			
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 15日		～	令和 7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～	令和 7年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	普段の療育活動に合わせて理学療法士による、個々の運動能力、理解度に合わせて機能訓練の活動もしており、各利用者に適した運動内容を提供している。	活動する内容によって対応する職員を検討し、より専門性を持ちながらもスムーズに活動に取り組めるように職員間の情報共有を重視している。	学校、保護者、相談支援員、他事業所とともにさらに連携を深め、利用者のその都度の成長やニーズに合わせた支援を提供していく。
2	集団療育で社会性・協調性を育てつつ、個別支援でその子の特性や課題に寄り添っている。	個別支援計画に基づき、集団活動の中でも一人ひとりの目標にアプローチしている。 集団が苦手な子には、「見学」「部分参加」など段階的に関わられる仕組みをつくっている。 同じ活動でも目的別(感覚・言語・協調など)に関わり方を工夫している。	個別と集団をつなぐ、「中間の活動」の導入。 集団療育と個別指導を組み合わせることで、子ども一人ひとりが「自分らしく、でも周りに関わりながら」成長できる活動を充実させていく。
3	五感を使った体験的な学び、農業体験・食育プログラムの実施。「育てる・収穫する・食べる・片付ける」までの一連の流れを体験できる。クッキングの中で役割を分けて協力し、自己選択・達成感を得ることができ、自尊心や社会性の育成につながっている。	レナファームの畑(有機栽培)で大自然に触れ、季節の野菜を育てている。 収穫した食材を使ってクッキングを実施。	食材や料理を通じた「文化・季節」への理解。 地域との連携。 子ども主体の活動展開。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流など障害のない子どもと活動する機会がない。	地域の一般児童との自然な関わりの場が少ない。 保護者や関係者の間でも、「無理をさせたくない」「迷惑がかかるかもしれない」という気持ちがある。	地域の理解と協力を得る。 小さな交流から始める(児童館や放課後児童クラブと一緒に活動する日を年に1～2回企画していく)。 子どもたちの声を大切にする(子ども自身が交流に前向きになれる環境づくりを進める)。 バザー開催などで地域との交流を図る。
2	父母の会や保護者会等の開催など、保護者同士の交流の機会が少ない。	コロナ禍以降、イベントや集まりが減少している。 保護者が多忙で交流の時間が取れない。	小規模な交流の場をつくる(お茶会などの開催)。 保護者向けイベントの開催(勉強会+座談会)。 など、保護者同士のつながりを支援する工夫をしていく。
3	非常時マニュアルの保護者への周知。	職員間ではマニュアルが周知されているが、保護者への説明、共有が十分でない。	マニュアルの「見える化」と配布。ホームページやSNS等を活用して周知していく。